

# 東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第58回学術フォーラム

*Forum for Interface Oral Health Science*

## 根尖病変におけるIL-1とTLR2の役割

佐々木 元 先生

Department of Cytokine Biology

The Forsyth Institute

平成24年7月4日 (水) 17:30～18:30

B1講義室 (講義棟 1階)

抄録: 根尖病変は根管系への細菌感染が惹起する免疫および炎症応答で、最終的に根尖周囲の骨組織を破壊する。免疫は根尖病変の成立や治癒の過程に大きく影響するが、その詳細は一部が解明されたにすぎず不明な点も多い。免疫は自然免疫と獲得免疫に大きく分類することができる。我々は、獲得免疫に欠陥があるT細胞欠損マウスにおいても野生型マウスと同程度の実験的根尖病変が形成されたことから、自然免疫は根尖病変および骨破壊において重要な役割を果たしていると考えている。なかでもInterleukin (IL)-1とToll-like receptor (TLR)は炎症の亢進と破骨細胞の活性化で中心的な役割を担っている。本講演では、東北大学との共同研究で得られた知見をもとに以下の二点について参加者の方々と議論したい。

1. IL-1欠損マウスにおける根尖病変の成立メカニズム
2. TLR2シグナルによる炎症抑制のメカニズム

連絡先: 第58回モデレーター 笹野 高嗣、庄司 憲明  
(口腔診断学分野)